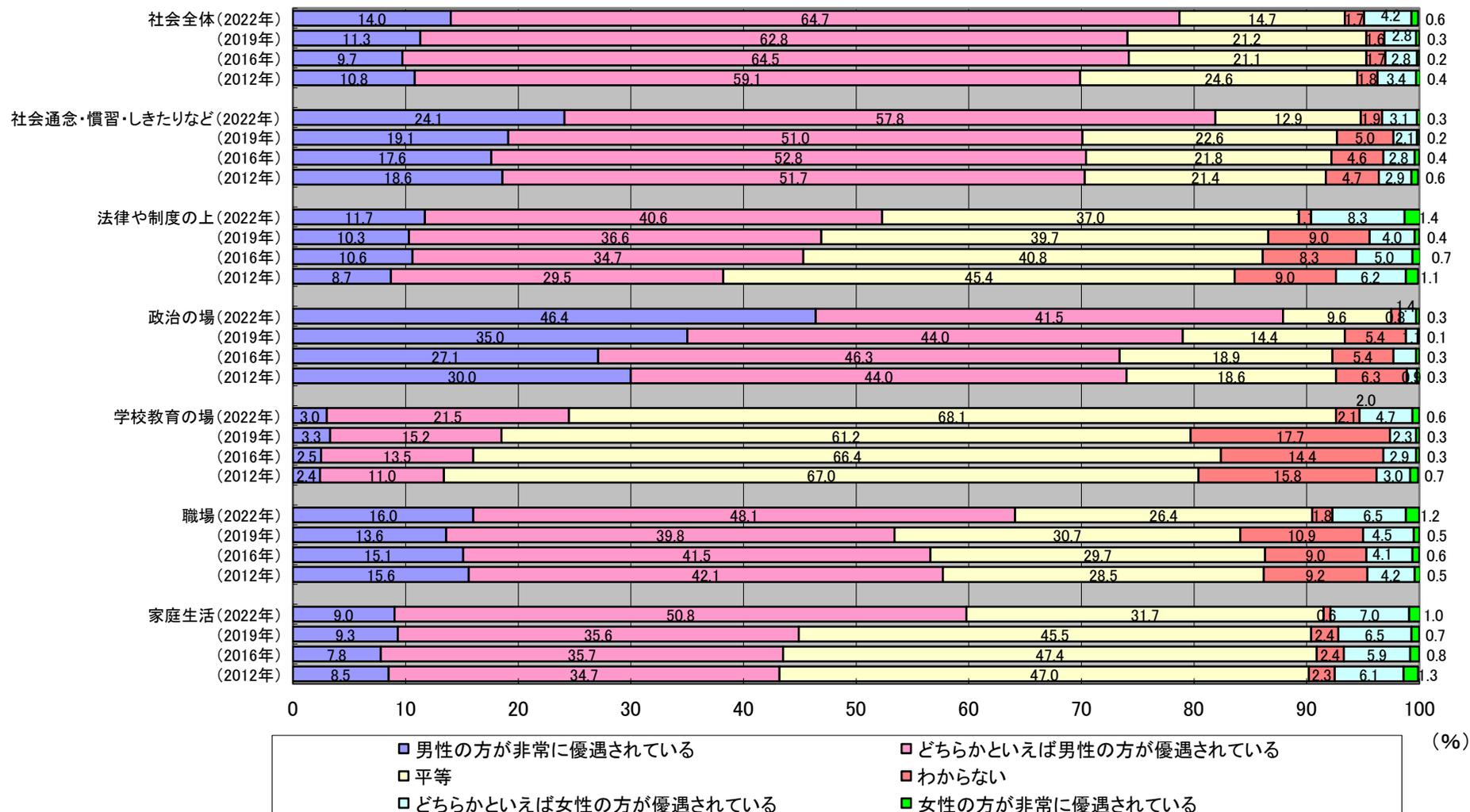


## 各分野における男女の地位の平等感(全国:男女計)

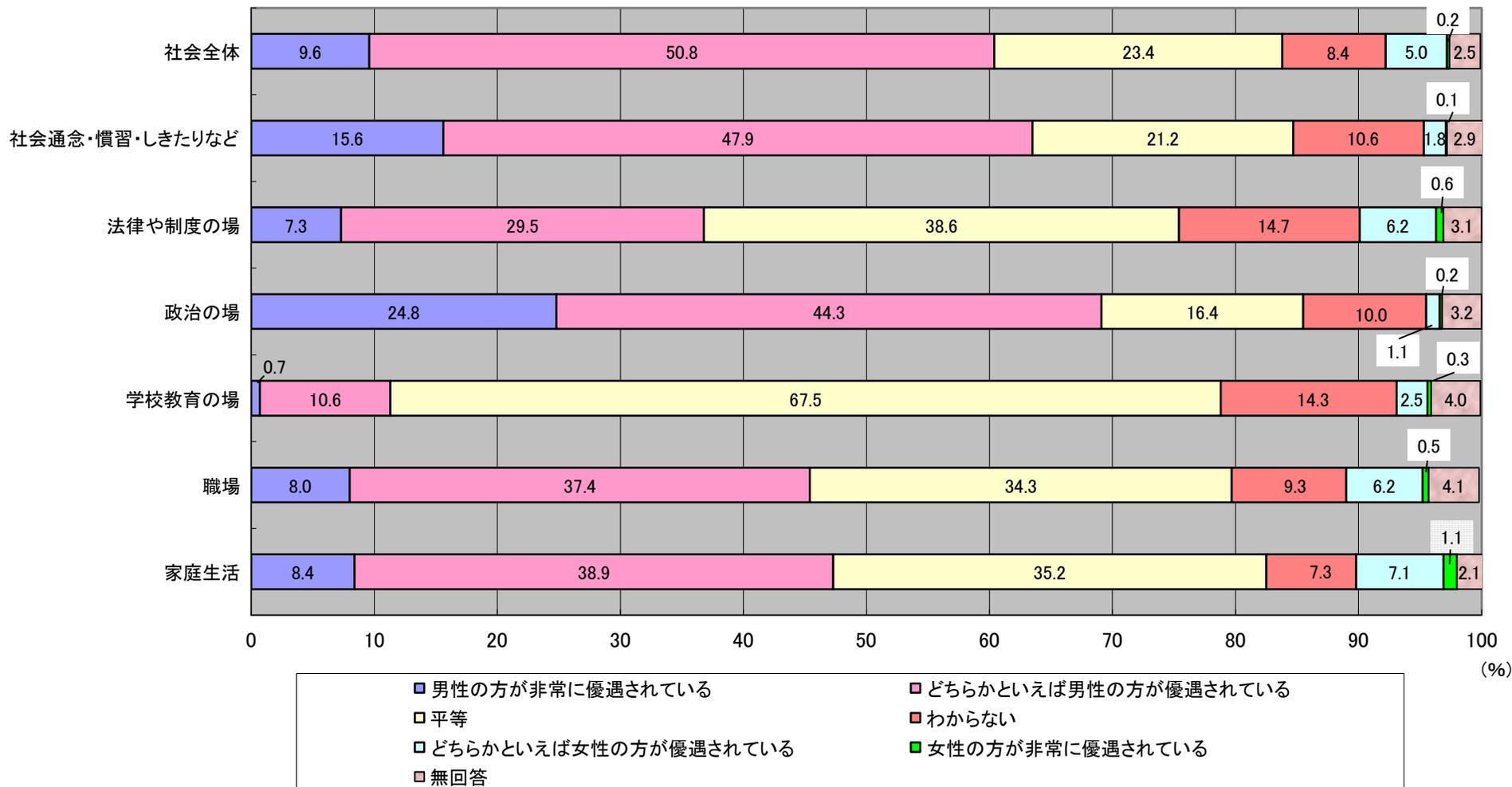
「男性の方が優遇されている」と考える人の割合は、減少しているものもあるが、「社会通念・慣習・しきたりなど」「法律や制度の上」「政治の場」「職場」においては、2019年より2022年の割合が増えている。



資料:内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」による。2012年は10月、2016年及び2019年は9月、2022年は11月調査。

## 各分野における男女の地位の平等意識(令和元年:高知県・男女計)

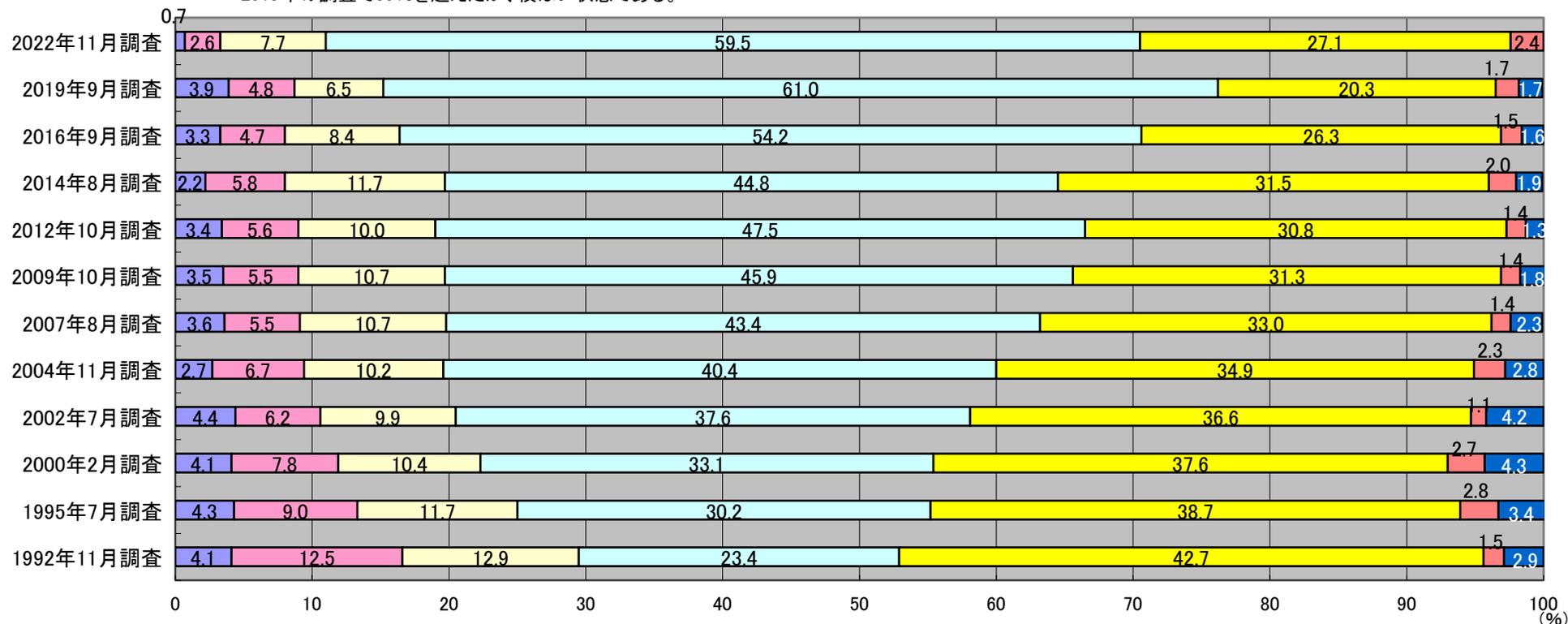
全体的には「男性の方が優遇されている」と考える人の割合は、全国の結果と同傾向にあるが、「家庭生活」は全国より、やや高い割合を示している。



資料:高知県「男女共同参画社会に関する県民意識調査報告書」による。2019年10~11月調査。

## 女性が職業を持つことに対する意識(全国:男女計)

「女性は職業をもたない方がよい」が2022年に0.7%と激減しており、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考える人の割合は2019年の調査で60%を超えたが、横ばい状態である。

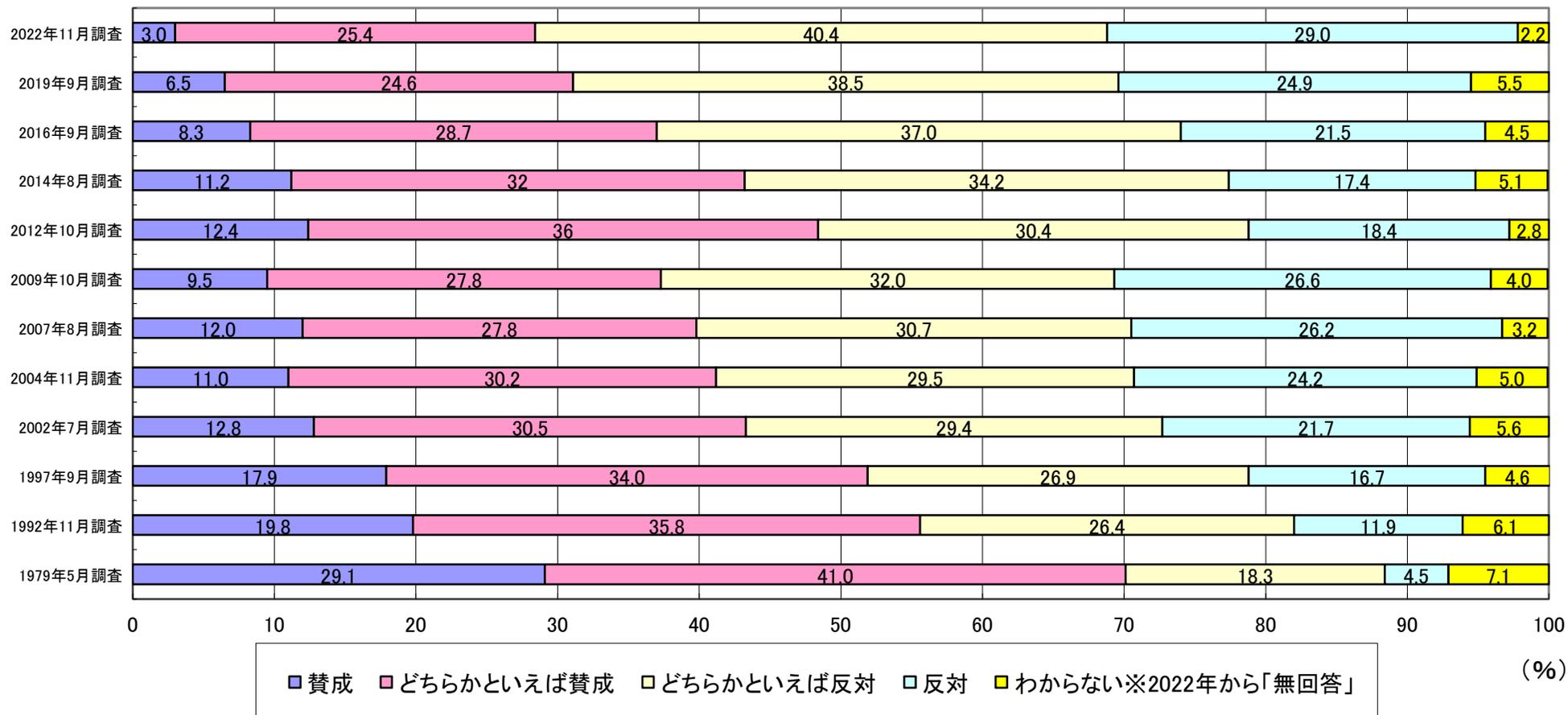


- 女性は職業をもたない方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- わからない
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- その他(2022年より「わからない」と合わせて「無回答」に)

資料:内閣府「男女平等に関する世論調査(1992)」「男女共同参画社会に関する世論調査(1995~2012、2016、2019、2022)」、「女性の活躍推進に関する世論調査(2014)」による。

## 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という 考え方に対する意識(全国:女性)

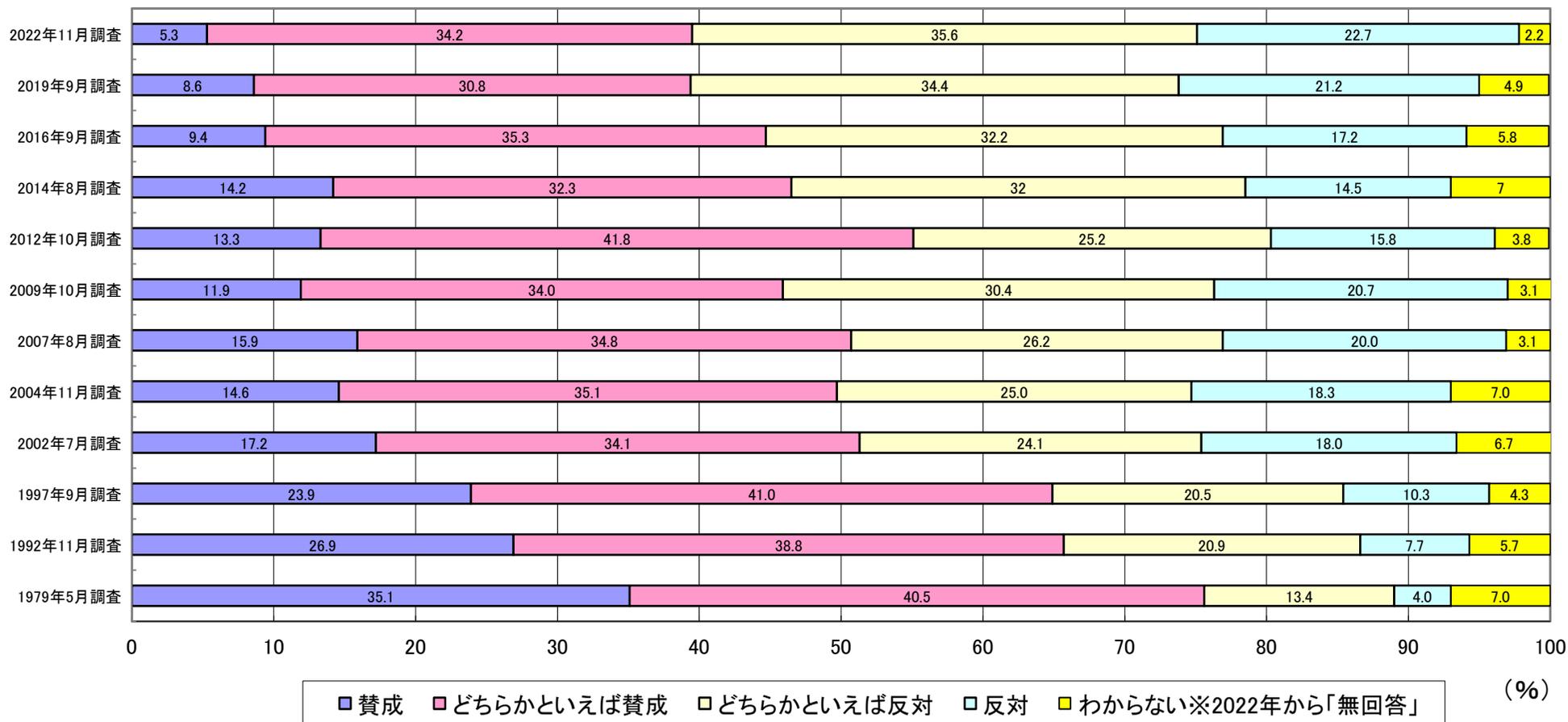
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方について、女性のうち「どちらかといえば反対」・「反対」と考える人の割合が、2022年には69.4%と7割近くに及んだ。



資料:内閣府「婦人(I部)に関する世論調査(1979)」「男女平等に関する世論調査(1992)」「男女共同参画社会に関する世論調査(1997～2012,2016,2019,2022)」、「女性の活躍推進に関する世論調査(2014)」による。

## 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という 考え方に対する意識(全国:男性)

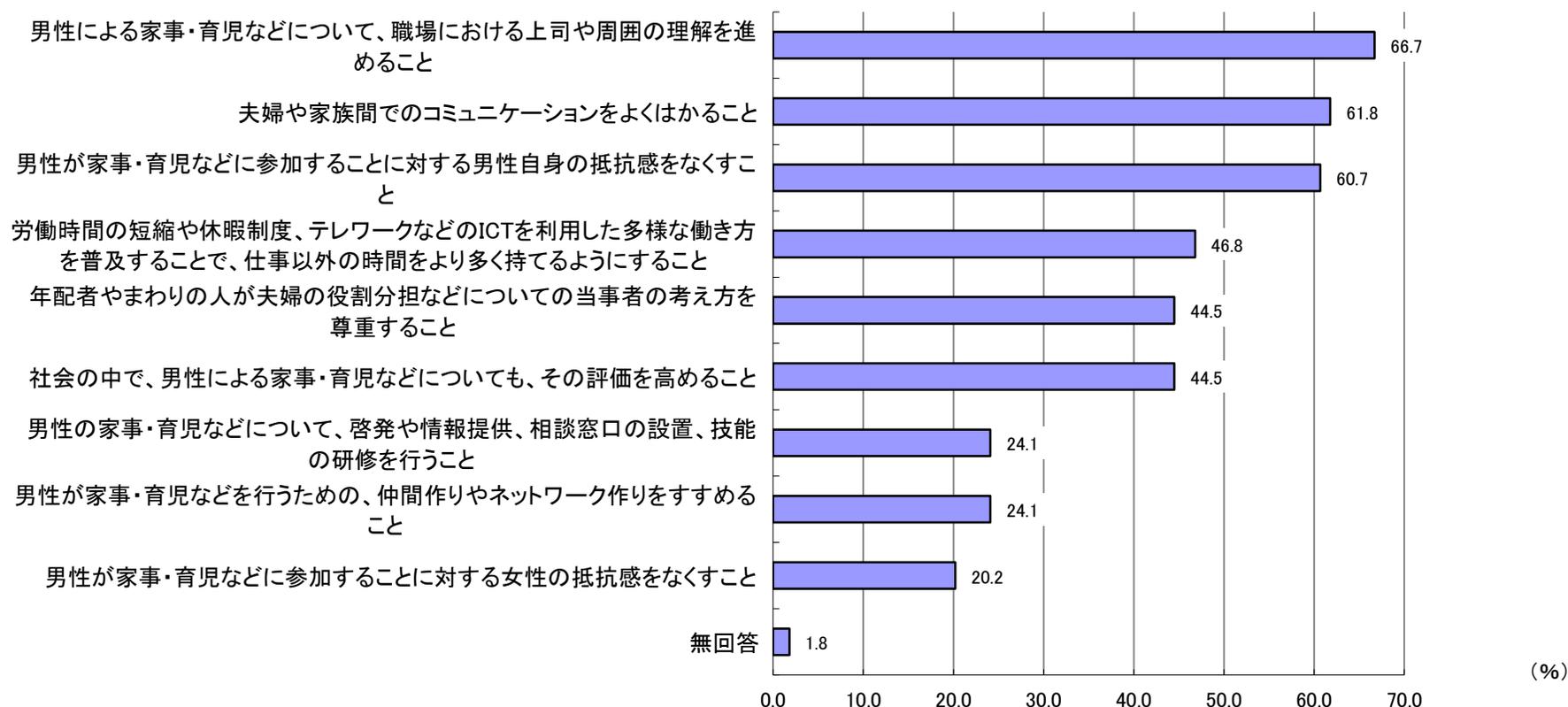
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方について、男性のうち「賛成」「どちらかといえば賛成」と考える人の割合は減少傾向にあり、2022年は39.5%となった。



資料:内閣府「婦人(I部)に関する世論調査(1979)」「男女平等に関する世論調査(1992)」「男女共同参画社会に関する世論調査(1997～2012,2016,2019,2022)」、「女性の活躍推進に関する世論調査(2014)」による。

## 男性が育児や介護、家事、地域活動に積極的に参加するために必要なこと(令和4年・全国)

「職場における上司や周囲の理解を進めること」が最多で66.7%、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性の抵抗感をなくすこと」が60%以上となっている(複数回答)。

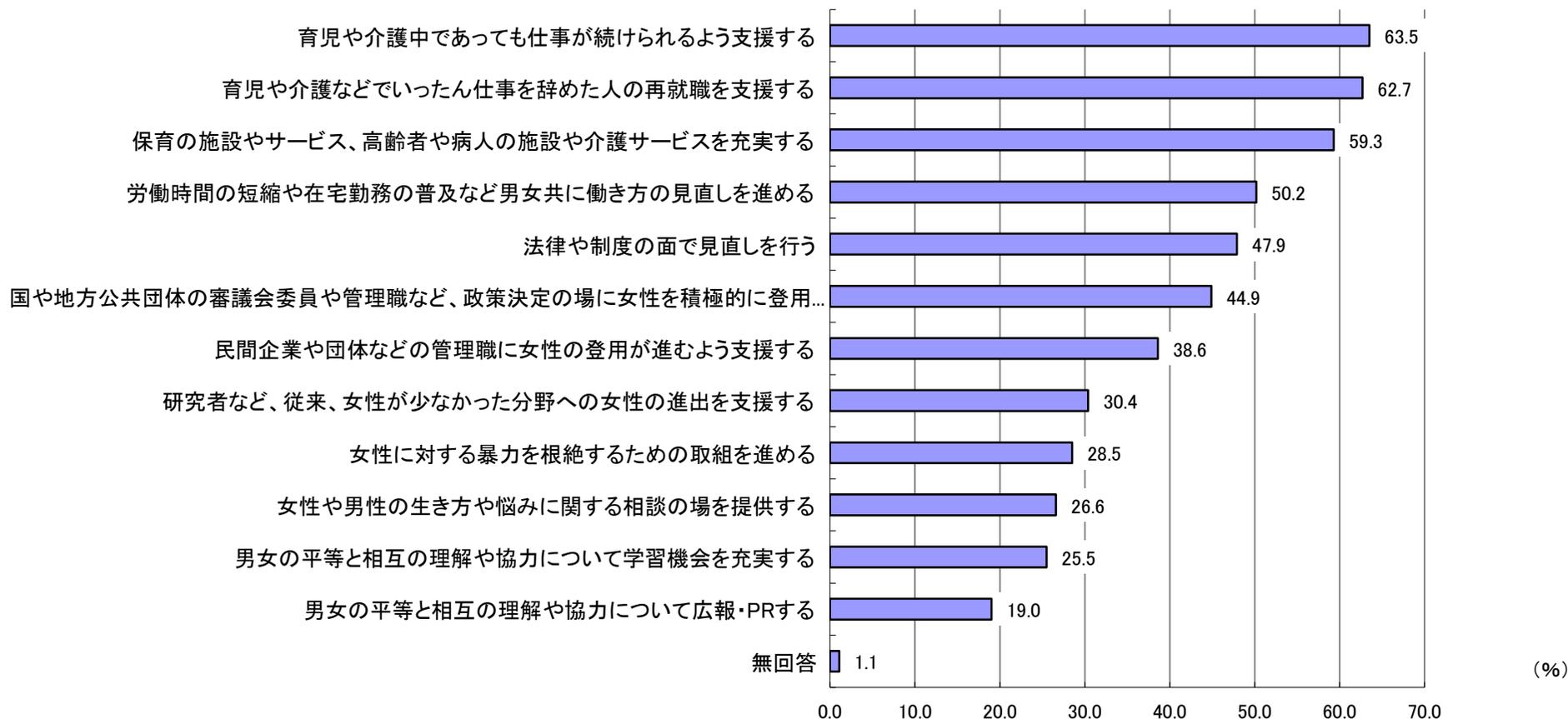


資料:内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(2022)」による。

総数(回答者数=2,847人、回答数合計/回答者数=395.2%)

## 男女共同参画社会に関する行政への要望(令和4年・全国)

「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最多で63.5%、次いで「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」も62.7%といずれも60%を超え、多くなっている(複数回答)。



資料:内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(2022)」による。

(回答者数:2,847人、回答数合計/回答者数:498.1%)